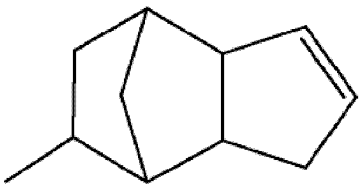
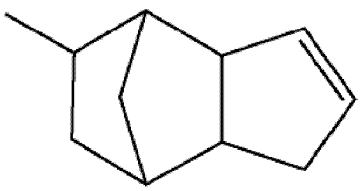
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和5年8月3日(2023.8.3)

【国際公開番号】WO2022/172921
【出願番号】特願2022-580635(P2022-580635)
【国際特許分類】
C08F214/18(2006.01)
C08F299/00(2006.01)
B32B 15/082(2006.01)
H05K 1/03(2006.01)
【FI】
C08F214/18
C08F299/00
B32B 15/082 B
H05K 1/03 610H

【手続補正書】
【提出日】令和5年5月12日(2023.5.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
主鎖を形成する炭素原子とフッ素原子との間のＣ－Ｆ結合を有する含フッ素熱硬化性樹脂であって、
下記式（Ｉ－１）で示されるジシクロペンテニル基及び下記式（Ｉ－２）で示されるジシクロペンテニル基からなる群より選択される少なくとも１種を有し、
【化１】



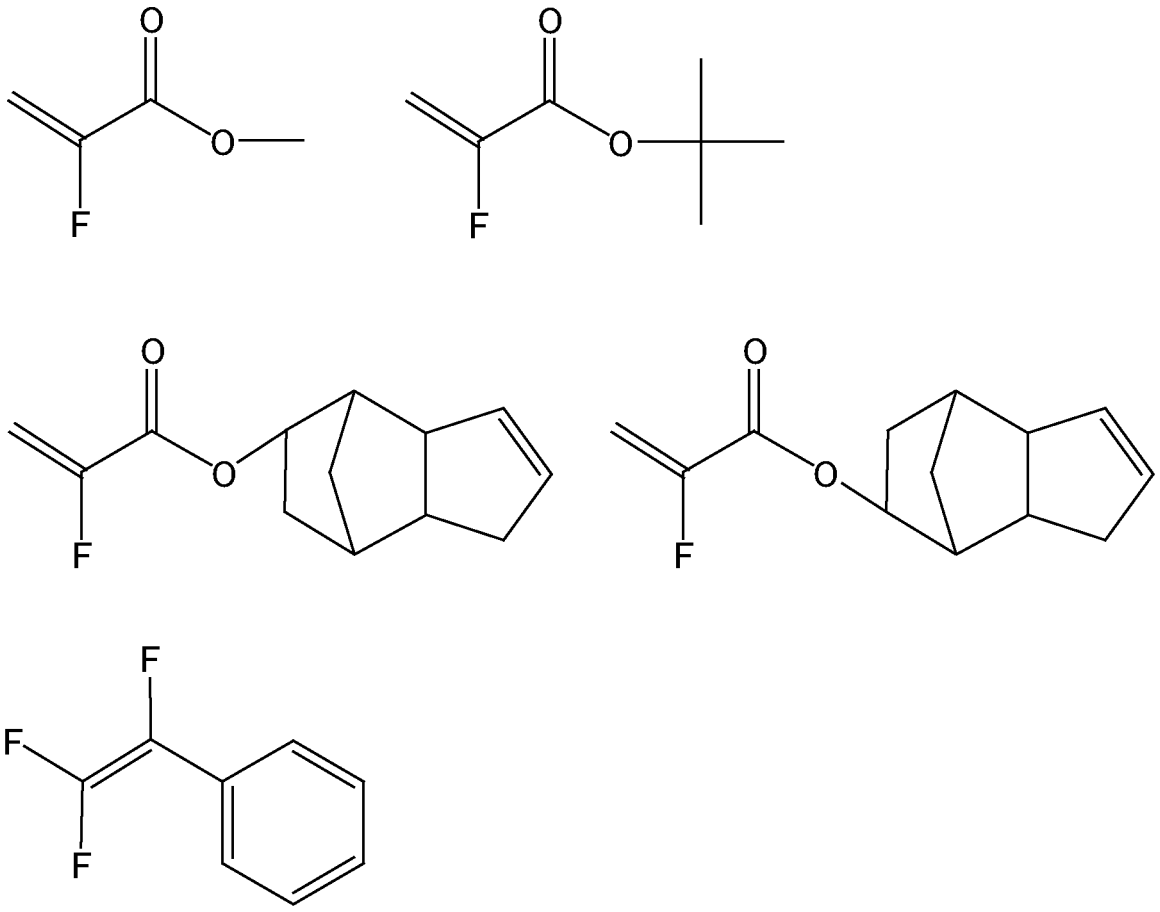
(I-1)



(I-2)

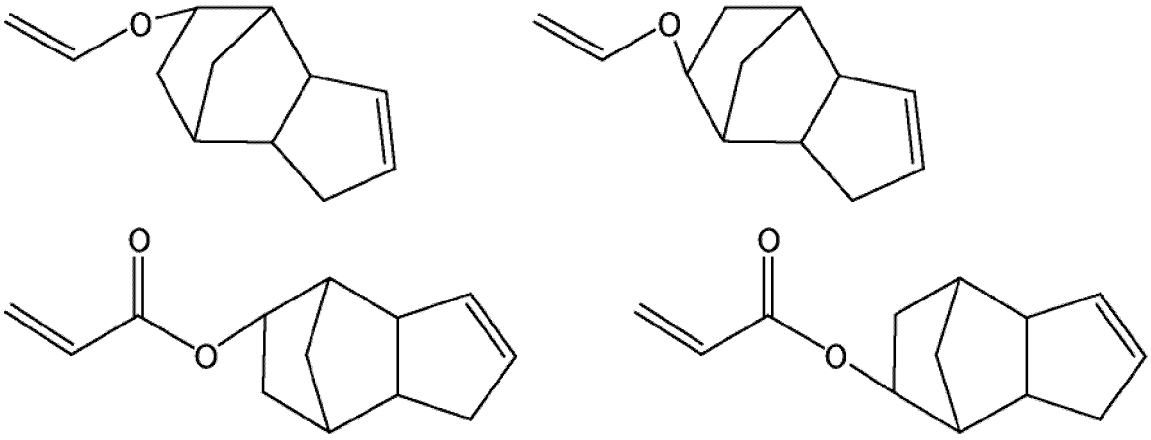
前記含フッ素熱硬化性樹脂が含フッ素モノマーとフッ素非含有モノマーとの共重合体であり、
前記含フッ素モノマーは、フッ化ビニリデン、テトラフルオロエチレン、クロロトリフルオロエチレン、フッ化ビニル、ヘキサフルオロプロピレン、パーフルオロ（アルキルビニルエーテル）、及び、下記式で示される化合物からなる群より選択される少なくとも１種を含み、

【化２】



前記フッ素非含有モノマーは、下記式で示される化合物の少なくとも１種を含む含フッ素熱硬化性樹脂。

【化３】



【請求項２】

前記含フッ素熱硬化性樹脂に含まれるフッ素含有量は、前記含フッ素熱硬化性樹脂の全質量に対して、１質量％以上１５質量％以下である請求項１記載の含フッ素熱硬化性樹脂。

【請求項３】

ガラス転移温度が８０℃以上である請求項１又は２記載の含フッ素熱硬化性樹脂。

【請求項４】

数平均分子量が１０００～３００００である請求項１～３のいずれかに記載の含フッ素熱硬化性樹脂。

【請求項５】

請求項１～４のいずれかに記載の含フッ素熱硬化性樹脂と、溶剤とを含む含フッ素熱硬化性樹脂組成物。
【請求項６】
請求項１～４のいずれかに記載の含フッ素熱硬化性樹脂を含むフィルム。
【請求項７】
基材と、前記基材上に設けられた樹脂層とを備える積層体であって、前記樹脂層が、請求項１～４のいずれかに記載の含フッ素熱硬化性樹脂を含む積層体。
【請求項８】
金属箔と、前記金属箔上に設けられた樹脂層とを備える金属張積層板であって、前記樹脂層が、請求項１～４のいずれかに記載の含フッ素熱硬化性樹脂を含む金属張積層板。
【請求項９】
請求項８の金属張積層板の金属箔をエッチングして形成されたパターン回路を備えることを特徴とするプリント基板。